

# 伊藤邦武教授 略歴・業績一覧

## 1. 略歴

生年月日 昭和24年(1949年)10月4日

### 学歴

1968年3月 神奈川県立湘南高等学校卒業  
1969年4月 京都大学文学部入学  
1973年3月 同哲学科卒業  
1975年3月 同大学院文学研究科修士課程修了  
1978年3月 同研究科博士課程単位修得退学  
1980年6月15日 (アメリカ合衆国)スタンフォード大学大学院哲学科修士課程修了  
1985年3月27日 文学博士(京都大学)

### 職歴

1981年4月1日 京都大学文学部助手  
1985年4月1日 神戸大学文学部助教授  
1991年4月1日 京都大学文学部助教授  
1995年12月1日 同教授  
1996年4月1日 同大学院文学研究科(配置換え)  
2005年4月1日 同大学教育研究評議員(2006.3.31まで)  
2006年4月1日 同大学院文学研究科長(2008.3.31まで)  
現在に至る

### 賞罰等

2008年3月1日 和辻哲郎文化賞  
2011年11月3日 紫綬褒章

## 2. 業績

### 著書(単著)

1985年9月 『パースのプラグマティズム』、勁草書房

- 1997 年 10 月 『人間的な合理性の哲学』、勁草書房
- 1999 年 8 月 『ケインズの哲学』、岩波書店
- 2002 年 8 月 『偶然の宇宙』、岩波書店
- 2006 年 9 月 『パースの宇宙論』、岩波書店
- 2007 年 11 月 『宇宙を哲学する』、岩波書店
- 2009 年 2 月 『ジェイムズの多元的宇宙論』、岩波書店
- 2011 年 9 月 『経済学の哲学』、中公新書
- 2012 年 10 月 『物語 哲学の歴史』、中公新書

### 著書（編著）

- 1997 年 8 月 『分析哲学の現在』（共編著、第 3 章「合理的意思決定のモデル」、「あとがき」執筆）、世界思想社
- 1997 年 12 月 『コスモロジーの闘争』、「岩波新・哲学講義」第 5 巻（編著、「講義の七日間」、「思想史年表」）、岩波書店
- 1999 年 2 月 『哲学に何ができるか』、「岩波新・哲学講義」別巻（共編著、第 2 章「狐と葡萄、あるいは自己欺瞞のパラドックス」）、岩波書店
- 2007 年 8 月 『社会の哲学』、「哲学の歴史」第 8 巻（編著、「総論」、第 9 章「アメリカン・プラグマティズム I」）、中央公論新社
- 2008 年 6 月 『いま「哲学する」ことへ』、「岩波講座 哲学」第 1 巻（共編著、第 2 章「理性と非理性」）、岩波書店
- 2008 年 9 月 『科学/技術の哲学』、「岩波講座 哲学」第 9 巻（編著、「展望」）、岩波書店

### 翻訳書

- 1984 年 1 月 D・D・ラファエル『道徳哲学』（野田又夫と共訳）、紀伊国屋書店
- 1989 年 5 月 イアン・ハッキング『言語はなぜ哲学の問題になるのか』、勁草書房
- 1996 年 5 月 フランク・ラムジー『哲学論文集』（橋本康二と共訳）、勁草書房
- 2001 年 7 月 チャールズ・パース『連続性の哲学』、岩波文庫
- 2004 年 7 月 ウィリアム・ジェイムズ『純粹経験の哲学』、岩波文庫
- 2009 年 5 月 チャールズ・テイラー『今日の宗教の諸相』（佐々木崇、三宅岳史と共訳）、岩波書店

和文論文（共著書、学会誌、雑誌などに掲載）

- 1978年9月 『論理哲学論考』における「思考」と「自我」、『哲学論叢』5号
- 1980年9月 「パースの記号論的認識論」、『哲学論叢』7号
- 1981年5月 「パースの科学的探究の基礎づけ」、『思想』683号
- 1982年7月 「クワインの「自然化された認識論」、『理想』590号
- 1983年10月 「探究と倫理——パースにおけるプラグマティズムと規範学の理論」、  
『哲学研究』47-6号
- 1986年5月 「記号と意味」、『記号 論理 メタファー』、「新岩波講座哲学」3巻、  
岩波書店
- 1987年5月 「パースの意味分析」、『神戸大学文学部紀要』14号
- 1987年11月 「隠喩としての自然——ケプラーのメタ・アブダクション」、『科学哲学』  
20号
- 1988年2月 「記号論」、竹市明弘・常俊宗三郎編『哲学とはなにか』、勁草書房
- 1988年4月 「ウィトゲンシュタインにおける言語の自律」、井上庄七・小林道夫編  
『自然観の展開と形而上学』、紀伊国屋書店
- 1988年8月 「技術的探究について」、『関西哲学会紀要』22号
- 1988年10月 「パラダイム論の展開」、内井惣七・小林道夫編『科学と哲学』、昭和堂
- 1989年5月 「意味と真理——デイヴィドソンの言語哲学」、『愛知』5号
- 1990年10月 「意味とコミュニケーション」、神野慧一郎編『現代哲学のフロンティア』、  
勁草書房
- 1990年11月 「早く来すぎた記号論者——C. S. パース」、坂部恵・加藤尚武編『命題  
コレクション・哲学』、筑摩書房
- 1991年5月 「言語と自由」、『制度と自由』、「現代哲学の冒険」13巻、岩波書店
- 1991年9月 「ウィトゲンシュタイン」、神野慧一郎編『現代哲学のバックボーン』、  
勁草書房
- 1991年11月 「科学の客観性と相対性」、『数学セミナー』361号
- 1992年9月 「パットナムの機能主義批判」、『哲学論叢』19号
- 1992年11月 「合理性の自然化」、『科学哲学』25号
- 1992年12月 「言語ゲーム——ウィトゲンシュタイン」、丸山高司編『現代哲学を学  
ぶ人のために』、世界思想社
- 1993年6月 「哲学と民主主義——ローティの「政治としての哲学」をめぐって」、

- 『理想』 651 号
- 1994 年 1 月 「プラグマティズムの源流」、『分析哲学とプラグマティズム』、「岩波講座現代思想」7 巻、岩波書店
- 1995 年 4 月 「デカルト」、宗像恵・中岡成文編『西洋哲学史・近代編』、ミネルヴァ書房
- 1995 年 10 月 「デカルト批判・私的言語の議論」、飯田隆編『ウィトゲンシュタイン読本』、法政大学出版局
- 1996 年 3 月 「ケインズとラムジー——確率と合理性をめぐる」、『京都大学文学部研究紀要』 35 号
- 1996 年 6 月 「哲学の多元化」、『アルケー』 4 号
- 1997 年 3 月 「パスカルの賭け」、『人間存在論』 3 号
- 1997 年 4 月 「ケインズの哲学思想の発展」、『哲学研究』 563 号
- 1998 年 3 月 「ウィトゲンシュタインの最後の言語哲学」、『人間存在論』 4 号
- 1998 年 10 月 「デカルトとパース」、湯川佳一郎・小林道夫編『デカルト読本』、法政大学出版局
- 1999 年 7 月 「『新世界』の自己意識」、大橋良介・野家啓一編『「哲学」——「知」の新たな展開』、ミネルヴァ書房
- 1999 年 11 月 「ラムジー」「『哲学的文法』」「言語の自律性」、野家啓一編『ウィトゲンシュタインの知 88』、新書館
- 1999 年 12 月 「哲学よさらば? ——和田純夫『20 世紀の自然観革命』を読んで」、『PROSPECTUS』 2 号
- 2000 年 6 月 「ウィトゲンシュタイン」、大浦康介、小林道夫、富永茂樹編『哲学を読む』、人文書院
- 2001 年 3 月 「科学の変貌」、『新コペルニクスの転換』、「20 世紀の定義」5 巻、岩波書店
- 2001 年 9 月 「ヒュームの確率論」、『哲学論叢』 28 号
- 2002 年 4 月 「ヒュームの奇跡批判」、『哲学研究』 573 号
- 2002 年 8 月 「会話の原則と含意」、野本和幸・山田友幸編『言語哲学を学ぶ人のために』、世界思想社
- 2003 年 3 月 「懐疑論の効用——ヒュームの場合」、『人間存在論』 9 号
- 2003 年 4 月 「自然主義的認識論と懐疑論——ヒュームの場合」、『哲学』 54 号
- 2003 年 12 月 「ヴィジョンとしての宇宙論——チャールズ・パースと「スフィンクス

- の謎」(1)」、『PROSPECTUS』7号
- 2004年6月 「ケインズの実践哲学」、『経済学史学会年報』45号
- 2004年12月 「ヴィジョンとしての宇宙論——チャールズ・パースと「スフィンクスの謎」(2)」、『PROSPECTUS』8号
- 2005年10月 「宇宙における時間の誕生」、『現代思想』33-11号
- 2006年3月 「チャールズ・パースの「アガペー主義」」、『宗教哲学研究』23号
- 2006年10月 「唯名論と実在論」、『大航海』60号
- 2006年12月 「ジェイムズと西田幾多郎——その経験概念をめぐる」、『日本の哲学』7号
- 2007年6月 「パースの宇宙論・補遺」、『アルケー』15号
- 2008年5月 「哲学はいま」、(野家啓一、茂木健一郎、西垣通との座談会)、『図書』710号
- 2009年1月 「科学の進歩ということ」、『科学』79-1号
- 2009年1月 「意識と人格」、『大航海』69号
- 2009年5月 「『確率論』のパースペクティヴ」、『現代思想』37-6号
- 2009年9月 「ケプラーと天文学的仮説の真理」、『現代思想』37-12号
- 2009年10月 「ラスキンの藝術経済論(一)」、『哲学論叢』36号
- 2010年9月 「ラスキンの藝術経済論(二)」、『哲学論叢』37号
- 2010年12月 「哲学史と経済学」、丸山徹編『経済学のエピメーテウス』、知泉書館
- 2011年6月 「『視霊者の夢』の周辺で」、『別冊水声通信』1号
- 2011年12月 「資本主義のヴィジョンをめぐる」、ケインズ学会編『危機の中で「ケインズ」から学ぶ』、作品社
- 2011年12月 「自覚と自己表現的体系」、『日本の哲学』12号
- 2013年3月 「パースのデカルト批判」、安孫子信・出口康夫・松田克進編『デカルトをめぐる論戦』、京都大学学術出版会
- 2013年6月 「プラグマティズムとギブソン」、佐々木正人編『身体 環境とのエンカウンター』、「知の生態学的転回」第1巻、東京大学出版会
- 2013年12月 「解説」、野田又夫著『哲学の三つの伝統、他12篇』、岩波文庫
- 2014年4月 「九鬼周造と輪廻の時間論」、『哲学研究』、597号

#### 外国語論文

- 1989年11月 “Communication and Its Consummatory Nature”, *Acta Institutionis*

- Philosophiae et Aestheticae*, vol.7, Tokyo
- 1994 年 10 月 “Peirce and Davidson: Man is His Language”, in G. Debrock and M. Hulsuit, eds., *Living Doubt; Essays concerning the Epistemology of C. S. Peirce*, Dordrecht, Kluwer Academic Press
- 1991 年 11 月 “Fission of Personal Identity?”, *Acta Institutionis Philosophiae et Aestheticae*, vol.9
- 1992 年 11 月 “The Cost of Conflict: A Note on Risk Analysis”, *Acta Institutionis Philosophiae et Aestheticae*, vol.10
- 1993 年 11 月 “Philosophy and Democracy: ON Rorty’s Proposal”, *Acta Institutionis Philosophiae et Aestheticae*, vol.11
- 1994 年 11 月 “Prisoner’s Dilemma and Common-Sense Morality”, *Acta Institutionis Philosophiae et Aestheticae*, vol.12
- 1995 年 11 月 “Peirce’s Wager: The Rationality of Decision Making under Uncertainty”, *Acta Institutionis Philosophiae et Aestheticae*, vol.13
- 1997 年 11 月 “Concept’s Double Face”, *Acta Institutionis Philosophiae et Aestheticae*, vol.15
- 1998 年 11 月 “Keynes’ Methodology of Science”, *Acta Institutionis Philosophiae et Aestheticae*, vol.16
- 2000 年 11 月 “The Return of the Anthropic Principle”, *Acta Institutionis Philosophiae et Aestheticae*, vol.18
- 2013 年 “On Mental Causation”, in Antonio Manuel Martins, ed., *Cause, Knowledge, and Responsibility*, Paris, Vrin (in press)

#### 論文翻訳

- 1978 年 7 月 A.A. モール「サイバネティックスと藝術作品」、新田博衛編『藝術哲学の根本問題』、晃洋書房
- 1984 年 4 月 K.O. アーペル「知識の根本的基礎づけ」、竹市明弘編『哲学の変貌』、岩波書店
- 1985 年 5 月 ジョン・サール「発話行為とは何か」、竹市明弘編『分析哲学の根本問題』、晃洋書房
- 1991 年 1 月 J.L. オースティン「語の意味」、坂本百大監訳『オースティン哲学論文集』、勁草書房